

あびこの文化

発行人 大洋
美崎 我孫子市
高野山
250-23
04(7182)
0861

緊急事態宣言延長に関する市長メッセージ

市民の皆様には、旅行やお盆の帰省を控えるなど、リスクの高い行動を徹底的に避けていただき感謝しています。8月17日、政府は緊急事態宣言を9月12日まで延長しました。市では、8月19日に新型コロナウィルス感染症対策臨時本部会議を開催し、緊急事態宣言の延長に伴う市の対応を決定しました。(略)

市民の皆様、事業者の皆様には、これまでも多大なご協力をいただいておりますが、今一度、不要不急の外出自粛や感染防止の徹底をお願いします。

我孫子在住の作家坂上弘氏死去

「内向の世代」を代表する作家の一人で、日本近代文学館理事長の坂上弘(さがみひろし)さんが8月16日、がんにて死去した。我孫子に在住の数少ない著名な作家がひとり亡くなったことになる。坂上弘氏は慶応大在学中の19歳の時、「三田文学」に発表した「息子と恋人」が、昭和30年の芥川賞候補。「ある秋の出来事」で中央公論新人賞を受賞し、早熟な才能が注目された。卒業後はリコーに入社、会社員と作家を両立させた。平成7年、リコーを退社後、慶應義塾大学出版会取締役社長に就任。平成16年、紫綬褒章受章。同18年、日本文藝家協会理事に就任。日本芸術院会員。慶應義塾評議員。平成23年日本近代文学館理事長。同31年、旭日中綬章受章。



坂上氏は志賀直哉へのあこがれから我孫子(つくし野)に移住された。当会や我孫子市でも坂上氏に講演をお願いすることがある。平成5年4月当会の第13回文化講演会で「我孫子と私の文学遍歴」のテーマで講演されたのを始め、平成9年11月に、市民図書館と共催で川端康成文学賞・受賞の集いを開催、「創作活動と我孫子と私の」テーマで講演された。さらに平成16年には、紫綬褒章受章記念講演会(主催不明)で「私の作家人生と我孫子の魅力」、平成25年2月には教育委員会主催の講演会で「小説『和解』を読む」を講演。平成5年の当会主催の講演会の際の「我孫子と私の文学遍歴」の講演録から一部紹介する。

「私は、我孫子に住んで十年以上になる。あびこは私にとって終生忘れ得ぬ土地になると思う。志賀直哉は我孫子に七年半いたが、「暗夜行路」や「和解」など重要な作品をほとんど我孫子で書いた。私がい孫子に来たのは、志賀直哉へのあこがれが潜在意識にあった。(中略)

当時文壇では、私小説は評判が悪かった。プロレタリア文学の人たちから、社会性がないとして否定され、旗色が悪くなった。戦後になって、太宰の作品も破滅型の私小説といわれた。しかし、私のことが書けなくて何が書けるか、という主張が出された。私も自分の身辺を材料にするし、目立たず自然にかけるのがよいと思う。(中略)

我孫子の生活は私にとって、良いことがいっぱいある。二足のわらじを履く私は、電車で朝晩二時間くらい電車に乗っている。電車の中には小説のヒントが沢山ある。サラリーマンをやっていると、電車に乗っている時間は貴重である。満員電車で隣にいる人が死んでいて、乗っている人たちがわからなかったという。これも小説のヒントになる。(中略)

利根川の堤は面白い。土手の草の模様は五線譜に見える。終止符があるようにも見える。その草のなかでこおろぎが羽音をたてている。こうした自然のなかにいる自分とは何か、が大事なことだ。これで「土手の秋」を書いた。

そんなわけで我孫子に住んでぼつぼつ書いているが、これらの短編を収めた『田園風景』の本が、野間文芸賞となった。授賞式で安岡章太郎氏が、「坂上君の小説は家出少年が帰る所がなくて土手を歩いているようだ」と評した。また蕪村の句「春風や堤長うして家遠し」に通じるところがあると言われた。

我孫子第一小の生徒さんが銅像清掃活動

七月七日、我孫子第一小学校の生徒さん達が別荘跡の嘉納治五郎師範の銅像の清掃をした。

同校のホームページには「嘉納治五郎先生像の清掃活動をしました！(7/7)」とふるさと我孫子を愛し大切にしている心の育成を目指し、定期的に嘉納治五郎先生の像を代表の子供達が清掃します。清掃活動後に「嘉納治五郎先生と一緒に記念撮影！次は2学期に来ます！」のメッセージとともに写真が掲載されている。

同小学校では四月に山口祐子校長から榎原憲樹校長に代わり、前校長からの引継ぎ事項として銅像の清掃活動が引き継がれた。第一小学校には治五郎師範のお孫さんや曾孫さんが通学したことがあり、市内の他の小学校と異なり、師範に関する独自の授業もあると聞く。また校内には師範の真筆による『力必達』以人為鏡の2書額が残されている。



(緊急掲載)

各地の七福神巡り(4回目)
 (ぶらぶら敬天愛人Ⅱプログラムのタイトル)

2017年1月23日(月)

佐々木侑

「新宿山の手七福神」の見廻り

今年も遅ればせながらの、貴重な残り福をついでに拾いつつ、1月22日(日)に「新宿山の手七福神」の見廻りに出かけた。この処、日本列島には関東南部を除く九州から北海道までずばりと大寒波が襲い、各地で大雪の被害が拡大中である。にもかかわらずこの日は都内は風もなく日だまりは暖かく澄みきった青空の快晴で、20数名の同行者と共に快適な見廻り日和を過ごした。

【この日の行程】我孫子駅→上野駅→秋葉原駅→四ツ谷駅→丸ノ内線→新宿御苑前駅→①(布袋尊 霞関山太宗寺)→②(恵比寿)稲荷鬼王神社→③(福祿寿)大久保山永福寺→④(寿老人)春時山法善寺→⑤(辨財天)厳嶋神社坂弁天→⑥(大黒天)大乗山経王寺→⑦(毘沙門天)鎮護山善国寺→神楽坂界限(散策)→東京大神宮→飯田橋駅→秋葉原駅→上野駅→我孫子駅
 【行動時間6時間、歩行時間2時間30分、休憩時間1時間30分、歩数:約14,000歩】

新宿山之手七福神の概要

新宿山之手七福神は、大久保通りの新宿駅と飯田橋駅との間に点在する7寺社による七福神めぐりで、5ヶ寺2神社で構成され、約2時間30分で参拝可能な七福神。

① 布袋尊 霞関山太宗寺

浄土宗 御本尊阿弥陀如来、慶長元年(1596)頃、太宗という僧がこの地に建てたといわれる太宗庵を起源とする。

徳川家康江戸入府に際してこの辺りを屋敷地として拝領した内藤家後の信濃高遠藩主(の)帰依も得、内藤家の菩提寺となった。江戸六地藏の3番地藏、江戸三閻魔の閻魔王像、新宿山之手七福神の布袋尊が安置されている。

*江戸六地藏のうち甲州街道を守る3番目の地藏がある寺。

*江戸三閻魔の閻魔大王と奪衣婆の安置されている閻魔堂がある。奪衣婆は閻魔大王に仕え、三途の川を渡る亡者の衣服をはぎ取るとされる。衣をはぐということから内藤新宿の伎楼の商売神としても信仰されたという。

*布袋尊が安置されているのが写真の阿弥陀堂。

②(恵比寿)稲荷鬼王神社

稲荷鬼王神社は、戸塚諏訪神社境内の福瑠稲荷を承応二年(1633)に勧請したとい、天保三年(1832)に当地の百姓田中清右衛門が熊野から勧請した鬼王権現を



と合祀して稲荷鬼王神社となった。全国唯一の鬼の福授けの社として信仰を集める。平将門の幼名が「鬼王丸」といったことから、名前を取ったとの謂れがあり、江戸将門怨霊七社の一つである。

*境内の恵比寿神社(三島神社)には、新宿山ノ手七福神の恵比寿神が安置されている。

③(福祿寿)大久保山永福寺

宗派 曹洞宗 本尊 釈迦如来、創建年代 慶長十五年(1610)以前。

開基の貴雲尊悦は慶長十五年(1610)入寂、開山の桂屋瑞漱は万治二年(1659)入寂ということなので、それ以前の創建である。

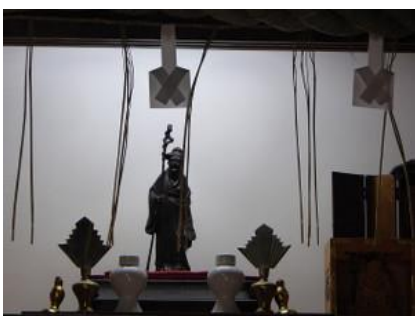
薬師堂の薬師如来は慈覚大師の作と伝えられる。*札所本尊の福祿寿は、境内の小堂に祀られている。

④(寿老人)春時山法善寺

日蓮宗寺院の法善寺は、春時山と号し、日相上人(貞享四年入寂)が創建した。甲州の七面山に鎮まるとい

う七面明神は七面天女・七面大菩薩とも称し、身延山の鎮守である。法華経守護の神として信仰を集めたが、江戸で祀られたのはこの寺が最初だそう。七面明神は本堂に祀られ、新宿区の文化財に指定されている。

*寿老人は庫裏玄関前小部屋に安置されている。
 *法華経守護の神・七面明神観音の画像…省略



⑤(辨財天)厳嶋神社

抜弁天厳嶋神社は、応徳三年(1086)鎮守府將軍「源義家」が奥州征伐の途上この地に立ち寄り、遠く富士を望み安芸の厳島神社に勝利を祈願し、奥州鎮定後その御礼に神社を建て、市杵島姫命(イチキシマヒメノミコト)を祀ったと伝えられる。江戸六弁天(本所・洲崎・滝野川・冬木・上野・東大久保)の一つで、東大久保の弁天様とも云うそうな。

*参道は南北に通り返けでき、また苦難を切り抜けた由来から、抜弁天として庶民から信仰された。

⑥(大黒天)大乗山経王寺

日蓮宗、経王寺は、日靜大徳が慶長三年(1598)市ヶ谷田町に創建した。天和三年(1693)当地に移転した。当寺の大黒天像は、日蓮宗中老日法で作で、日靜上人が身延山久遠寺より持ち出したものといひ、度重なる火事にも焼け残ったことから「火伏の大黒天」として崇敬を集めた。

*開運大黒天・火伏の大黒天として江戸庶民の信仰を集めた。

⑦(毘沙門天)鎮護山善国寺

日蓮宗、善国寺は、徳川家康より天下安全の祈禱の命をうけて、日惺上人(池上本門寺十二世)が麴町六丁



目に文禄四年(1595)創建、寛政五年(1793)当地移転した。

善国寺毘沙門堂の毘沙門天は、加藤清正の守本尊だったとも、土中より出現したともいわれ、江戸の三毘沙門と称されている(三毘沙門は特定できず不明)。

*善国寺本堂・本堂の毘沙門天像は撮影禁止

○番外、東京大神宮

東京における伊勢神宮の遥拝殿として明治33年に創建され、「東京のお伊勢さま」と称され親しまれている。最初日

比谷の地に鎮座していたことから、世に「日比谷大神宮」と称されていた。関東大震災後の昭和3年に現在地に移つてからは「飯田橋大神宮」と呼ばれ、戦後は社名を「東京大神宮」と改め今日に至る。天照皇大神・豊受大神を主祭神とする。

*拝殿には「良縁・結縁」を求める多くの参拝者の列

見廻り終了後、東京大神宮通りにある居酒屋「うお座」で煮魚と刺身の定食(980円)を肴に、熱燗2合を頂いた。



2018年1月13日(土)ブログ

江戸の情緒を体感する『佐倉七福神』の見廻り

平成30年1月10日(水曜)、寒風が時折吹きすさび肌もピリピリする寒さではあるが、冬の好天に恵まれたこの日、関八州流れ者軍団と洒落込み、江戸の情緒を鼻水を吸いながら体感しつつ、本年の七福を招き七難を逃れんと佐倉市中を七福神の見廻りをした。

実の処、年末から年初にかけてわがPCの不具合が発生し身動きが付かず、マイクロソフトのプロダクトキー番号入力せよとの指令を遂行できず(どこに収納したのか記憶無し)ほとほと困り果てていたところである。人間の脳細胞は記憶を呼び起こそうと悩みつつ考え抜くと突然に記憶を思い出すものである。2週間ほど悩んだが昨日ピカリと仕舞い込んだ場所を思い出したので、今はブログにしがみついている敬天愛人@y1985である。

当日の行程:

*武家屋敷↓①、大聖院↓*佐倉城跡↓②、麻賀多神社↓*お雛子館↓③、嶺南寺↓④、甚大寺↓⑤、宗圓寺↓⑥、妙隆寺↓⑦、松林寺↓*旧堀田邸庭園

*佐倉武家屋敷:佐倉に残る江戸時代の3棟の武家屋敷が公開されて

いる。当時の武士の暮しを窺うことができる。この辺りにはボランティアの案内人が少々うるさくつきまといつてくる。



① 大聖院

大和田山大聖院明王寺、鎌倉時代の初期に開山された真言宗豊山派の寺院。本尊の大日如来は佐倉市指定有形文化財に指定。

佐倉七福神のうち大黒天(財宝、武徳、除災招福の

神)と布袋尊(笑門来福、夫婦円満、子授けの神)を所蔵。

*佐倉城跡・・・水堀、土塁、本丸、天守台など城の面影が残っている。2006年「日本百名城」に選定された。ここにもボランティアの案内人がうるさく案内を押し売りしてくるので、辟易することもある。

② 麻賀多神社

旧佐倉藩の総鎮守で、古くから「まかたさま」と親しまれ、崇敬されてきた神社。印旛沼の東側から南にかけての地域にのみ存在する神社である。

佐倉七福神の疱瘡神社恵比寿尊(商売繁盛の神)と三峰神社福祿寿(長寿、幸福の神)を所蔵。

樹齢800年以上の大銀杏をはじめ古木・大樹に囲まれている。御祭神は「和久産巢日神」「稚産霊命」、伊勢の神宮外宮の御祭神「豊受姫命」の御親神。人・万物・事業の生成・発展を見守る神様で、恋愛・安産・子育て・健康・事業の御神徳をいただける神様である。

*佐倉おはやし館・・・郷土の文化、伝統行事、物産紹介など情報の提供が受けられる憩いの場所である。神田囃子のルーツは佐倉囃子だそう。・・・省略

③ 嶺南寺

清浄山嶺南寺、曹洞宗であり寛永十九年(1642)に松本藩主堀田正盛の佐倉移封と共に松本より佐倉に移り建立された。本尊は「釈迦牟尼佛」で開山は陽南良雪大和尚。本堂内には閻魔大王を安置している。



佐倉七福神の弁財天(唯一の女神、知恵財宝・愛嬌縁結の神)を祀る。弁財天は本堂内に安置されており、1月1日? 10日のみ御開扉している。

④ 甚大寺

安城山甚大寺、天台宗比叡山延暦寺の末寺として1615年に建立された。堀田家の菩提寺であり本尊は十一面観音菩薩。その他金比羅尊、不動明王、毘沙門天、仁王尊が奉られ、毎月10日は招福祈願して金毘羅縁日が開催され賑わう。また、境内には健康を願って「お身ぬぐい観音」が奉られている。

佐倉七福神のうち、堀田毘沙門天(仏教四天王の一人、招福利財の神)を祀る。

⑤ 宗圓寺

正覚山宗圓寺、臨済宗妙心寺派のお寺で、本尊は観世音菩薩。寛永十六年に松本藩主堀田正盛が松本に建立した円覚山恵光院の境内に、16歳で卒



去した弟堀田佐兵卫安利の冥福を祈り建立、寛永十九年(1642)に佐倉の現地に移された。墓地には佐倉蘭学の興隆を図った順天堂創立者佐藤泰然の墓等がある。佐倉七福神のうち、寿老人(大地を掌握する神様。財宝、福德円満の神)を祀る。

⑥ 妙隆寺

久栄山妙隆寺、山梨県身延山久遠寺を総本山とする日蓮宗のお寺。本土寺(松戸市・あじさい寺)第9世日意上人によつて、文明三年(1471)に開創された。本堂は鎌倉様式。境内の墓所には、日本で初めて種痘をしたとされる医師、鐫木尚安・仙安ほか先人が多く眠っている。佐倉七福神のうち、大黒天(大地を掌握する神様。五穀豊穡、福德円満の神)を祀る。

⑦ 松林寺

玉寶山松林寺、浄土宗寺院、初代佐倉藩主土井利勝が土井家の菩提寺として、慶長十五年(1610)に建立した。佐倉城の築城と同時期に建立された現本堂は、土井利勝が春日局より譲り受けた「聖観音像」を安置する為に建てた観音堂で千葉県の有形文化財指定。境内には、土井



利勝の両親と妻の墓がある。毘沙門像は、徳川家康の五男武田信吉を祀った後に、松林寺に奉納されたと伝えられている。

佐倉七福神の一つ土井毘沙門天(仏教四天王の一人。融通招福の神)を祀る。

*旧堀田邸、さくら庭園：建物「棟は、旧堀田家住宅として国の重要文化財に指定されている。明治時代の上級和風邸宅として庭園とともに残る貴重な建造物である。

柳宗悦を支えた兼子(その2)

大井 正義

(註、文中() 数字は参考文献、文末参照) 功績が認められたのは宗悦のみではありませんでした。兼子も活動が認められ紫綬褒章と芸術院恩賜賞を受賞しています。特に後賞の受賞は女性初のことでしたので、大きな功績があったことがわかります。そのことは後年(1972昭和四十七)年、さらに声楽家として初めて芸術院会員に選出されたことでわかります。八十歳のときでした(2)。

宗悦は結婚後間もなく、後に「民芸」という言葉を提唱することになる、日常生活に使用している、雑器と考えられていた李朝の陶磁器から美を着想しました。(李朝の白磁は雑器とは思えません)。その後も木喰上人(1718享保三年〜1825(文政八)年)が彫った、怖い閻魔様も微笑んでしまう、人々が安らぎを感じる、他に例が見られない、型破りな大胆にユーモラスに微笑んでいる、「微笑の木喰仏」等の研究を追求することができました。木喰上人は北海道から九州地方まで行脚をしたので、1983(昭和五十八)年時で803体の仏像が発見されています(3)、(9)。

この二つの研究のみでも、長期間の宿泊を費やした研究でしたが、柳の思想活動まで考えると、かなりな資金を必要とした生涯でした。

宗悦が『我孫子から 通信一』を描いた時は、前述の二つのことが考察できますが、兼子の献身的な生活を

見ると、あの美しい文には、そのことのみでなく様々な幸福感がこめられていると考えます。そのことを大胆に想像すれば、兼子と結婚できた幸せと、このような生活ができる、生涯売れない作家生活ができることがわかった、もつと深い幸せの感謝の想いが込められている文ではなからうかと考えます。

〇〇〇〇〇〇

我孫子の柳夫妻について述べましたが、秋谷半七氏の取材から嘉納および柳夫妻と白樺派の人たちの生活もわかりましたので、この取材と発表されている文を参考に、彼等が我孫子の人たちに様々な影響を与えていたことを述べました。

1. 嘉納は『嘉納治五郎等』にみられように、ほぼ毎週のように我孫子にやってきました。そのようななかで手賀沼のウナギが好物であることがわり、駅から自宅に向かう途中でかば焼を注文したり、子どもたちに話かけたり、気軽に町の人と話をしていたことがわかりました。我孫子小学校長に「力必達」(似人為鏡)の書額を贈っていることから、町の人たちと交流があったことがわかります。

2. 柳は、我孫子の人たちは喧嘩をしていることを述べているので、この記述からは、柳は我孫子の人たちに好意をもっていないように思われます(1)。柳がこのように述べていることもあり、白樺派の人たちは町の人たちと交流はなかったことが伝えられています。そのことは事実でしたでしょう。

前述の柳夫妻の生活を考えると二人は生涯仲むつまじかったようにみえますが、波風が立ったこともありました。宗悦は山の手育ちなので、荒々しい言葉を好まなかったからです。一方、兼子は下町育ちでしたので、荒々しい「下町言葉」で話していたからです。このことが柳夫妻に波風がたった一つの原因であったと伝えられています(6)。(当時の「我孫子言葉」は「下町言葉」以上に荒々しかったので、柳は我孫子の人たちをこのように感じたのかもしれませんが。しかし、あの文は柳が我

孫子に住んで間もなくの文でした。同じく我孫子に住んだ杉村楚人冠は、町の人たちを温かく見えています。柳は後年、「仏の国には美醜がないのである」、といっており(6)、次のように町の人たちと交流しているので、柳は我孫子の人たちへの感じ方は変わらなかったのでしょうか。

3. (リーチが我孫子に移住してきたのは、氏の師匠であつた陶芸家の尾形乾山は、葦に囲まれた手賀沼を見はらす柳の土地にあつた、再建される予定であつた古い窯を、リーチが買い取ることに同意してくれたからでした(10)。

リーチは陶器を焼いていたので、我孫子小学校では陶器を焼くことを授業でおこなっていました。白樺派の人たちは芸術に深い理解を持っていたので、彼らの影響を受けて、我孫子小学校は芸術教育に力を入れすぎるといわれていました。

リーチの子息デビッドは、子どもたちと遊ぶときは日本語で、リーチとは英語で話していたので、英語を学ぶ子どもがあらわれました。飯泉重賢(しげかた)は英語を宗悦から教えてもらっていました。

4. 兼子が歌の練習を始めると、子どもたちは、その素晴らしさに聴きほれました。(この光景は子どもたちにも好まれた歌を唄ったときであつたと思います)。このような影響があり、音楽学校に入学した人がいました。この人が結婚したときは、柳夫妻は仲人を依頼され引き受けていました。(残念なこと氏名は聞き損じてしまいました)

5. 宗悦が志賀宅に遊び?に行つてるとき、兼子は志賀宅にむかつて「お父さん」と呼ぶと、声が届いたので帰ってきたとのこと。また、武者小路実篤が柳宅にくると、宗悦は志賀宅に向かつて「武者が来たぞう」と叫ぶと、志賀がやってきたとのこと。このことから当時の我孫子は、柳が求めた静寂な環境であつたことが想像できます。

6. 白樺派の人たちが我孫子に住んだので、散歩をする人があらわれました。テニスコートができ、我孫

子の人たちも楽しみました。

7. 我孫子の人たちは前述のように、柳や白樺派の人たちと交流した人もいましたが、多くの人は交流しなかったとしても、彼らから直接間接に様々な影響を受けたので、白樺派の人たちが我孫子に住んでからは上級学校にすすむ子が多くなりました。

8. 我孫子小学校校長の子息は柳宅に書生として出入りをしていました。その時茶碗を持ってきて、柳に「この茶碗も民芸品ですか」と尋ねています。この質問に柳は「日用品であつても、心をこめてつくった作品でなければ、民芸品といえない」と答えました。

これ等の時代は、兼子が東京生活でピアノを弾いていると、出入りの人に「変なものを叩いている」といわれた時代でした(2)。このような時代に我孫子の人たちは兼子が唱うヨーロッパの著名な歌曲を聞いたことでしょう。散歩やテニスをした人は一部の人であつたかも知れませんが、しかし、このような人たちが現われたことは、歌曲を聞いた人たちと共に、我孫子に、あるいは日本に新しい文化が登場したことを感ずるところでしょう。

ここに述べたことは主として取材記ですが、「我孫子市史研究センター」会員と、本会会員の皆様は白樺派について研究し、発表しておられるので、これらの発表も併せて考察すると、白樺派の人たちが我孫子の人たちに与えた影響は大きかったことがわかります。そのなかでも取材で注目したのは8項で、柳が提唱した「民芸の美」については様々に述べられていますが、「心をこめて、…」という、柳の具体的な言葉を知ったのは初めてのことです。

柳が提唱した「民芸の美」は難解ですが考察すれば、「名もない無学の無名の民衆である工人がつくった、雑器といわれている工芸品の陶器や箆笥等の日用品にも美がある」という考え方です。柳は工芸品をこのように考えたので、これ等の作品を「民衆の工芸」と考えましたが、詰めて「民芸」としたのです。この提唱は新しい美の提唱でした(3)。

一方、柳が唱えた「民芸の美」については、柳の説以外にも多説あります。そのなかには柳の「民芸の美」の欠如を唱える説もあり、そのなかの一つに次の記述があります。

柳には無学で美意識を持たない筈の工人が、美しい器物を創り得るのが理解できなかったらしい。そのため古民芸品の美を見るとときでも、無学な工人が美しい民芸品をつくることのできるのとは、そこには何か特別な神秘的な力が働いたと考えた、と述べています(4)。縄文人は当時の最高技術(学術か?)を学んで、調理器具である火焔土器等を作っているの、柳が考える無学とは何を基準にしているのかわかりませんが、「神秘的な力」については次のように考えます。

名人といわれた工人でも、さらに高みを目指せば苦悩の世界です。そのような時、不思議なことに神が降りてきて、ひらめきを与えてくれたことがあつたのではなからうか。柳ならこのような体験をしていると考えられ、このようなことを述べたのではなからうかと考えます。

このように「民芸の美」には諸説ありますが、柳が収集した品々は、「雑器」と述べながら高価な品々ではないかと述べる説があります。この説は柳が考える「心をこめてつくった作品でなければ、民芸品とはいえない」とすれば、民芸品はそのことを満たす作品になるので、それに相応しい価格になったと考えます。いずれにせよ私が柳の民芸論に魅せられるのは、改めて述べることはありませんが、「名もない無名の工人」に視点を向けたことです。(了)

参考文献

1. 柳宗悦『柳宗悦全集第一巻』筑摩書房発行 昭和五十六年
2. 松橋桂子『柳兼子伝』水曜社発行 1999年
3. 熊倉功夫『民芸の発見』角川書店発行 昭和五十二年
4. 出川直樹『民芸』新潮社発行 1988年
5. 柳宗悦『柳宗悦全集第四巻』筑摩書房発行 昭和五十六年

6. 鶴見俊輔『柳宗悦』平凡社発行 1976年
7. 国立西洋美術館『ウィリアム・ブレイク展』(1990年9月開展)図録 日本経済新聞社発行
8. 「朝日新聞」2020年5月23日(土)号「手賀沼の近く芸術家が集う」

9. 船橋・西部美術館「木喰仏彫刻展」昭和五十八年八月開展、同展の図録として置かれていた別冊太陽「木喰の微笑」平凡社発行 1983年
10. バーナード・リーチ、福田陸太郎訳「東と西を超えて」日本経済新聞社発行 昭和五十七年

「我孫子の文化四十年の歩み」に寄せて

坪内園子様からお手紙

越岡 禮子

当会発行の記念誌『我孫子の文化四十年の歩み』を読まれた、嘉納治五郎の曾孫にあたる坪内園子様からお手紙を頂きました。その内容の一部を以下に記します。

一・「四十年誌」は治五郎研究のひとつの到達点として今後参考にされる貴重な文献と感ずること。

二・「四十年誌」は(嘉納家の)親戚の方々も目を通され、色々話題にされたこと。私(越岡)の書いた文章の中の「松輪別荘」については一般に知られていないにも拘わらずよく調べたと驚かれたこと。松輪別荘には坪内様のお父様も行かれ、皆川都さんも美大生だった時に行かれことがあり、楽しい思い出だったと語られたこと。

一方、私の書いた部分について誤りの指摘と修正の依頼もありました。

三・95上段ページ五行目「……生源寺順の墓所は青山霊園の二種十七側にあります。」を

「……生源寺順の墓は、順の孫が現在我孫子に在住して二〇一六年から手賀沼の近くの城山聖地霊園にあります。」に訂正します。

以上が坪内様のお手紙の主な内容ですが、別途、私自身が後に間違いに気づいた箇所についても併せて修正させて頂きます。

94ページ下段最終行目

「……柳樹悦と勝子の墓は同じ染井霊園の……」を
「……柳樹悦と勝子の墓は青山霊園の……」に修正しま
す。参考とした資料に誤りがありました。

『四十年誌』を読んで

「第二章『研究論文・随想など』の寄稿文・ジャンルの広さにびつくりしていて、これが『我孫子の文化を守る会』の特性なんだと改めて気づかされました。そして、この会は、過去に我孫子に関連した人物や出来事、地理を深掘りし、研究する有志の会と思っていました。勿論そうだと改めて思いましたが、それだけではなく、現在から将来に向けて、我孫子発の文化を新たに構築していく会なんだなと気が付きました。(j.k)

「大変立派な冊子で驚きました。そして私の拙い文を掲載して頂き恐縮しております。充実した四十年の歩みがぎつり詰り、皆様のお活躍や足跡がまとめられた貴重な一冊ですね。ゆつくりと目を通して頂きます。(M.i)

『四十年誌』の正誤について

45ページ嘉納治五郎系図 表中右下

(誤)履生 (正)履正

175ページ上段12行目

(誤)大正十一年 (正)大正十二年

284ページ下段1行目から2行目

(誤)新田の妻 (正)新田の妻

(正)近隣の人々からの話でも伺えた。

あびこだより 97号

志賀直哉作品『和解』と我孫子

村上 智雅子

『和解』は、我孫子を題材とした七作品(我孫子時代に書かれたのは五作品、いわゆる我孫子ものの中で唯一の中編作品であり、志賀の代表作のひとつです。大正六年十月『和解』は雑誌『黒潮』に発表されまし

たが、同年八月三十日に永年の父との対立が解けたことを喜び、十五日に百五十枚、一気呵成に書かれました。それ故まとまりに欠けますが、志賀の剛毅に秘められた優しさが生のままに現われていて、心を捉えます。

発表当初、『和解』は文壇で様々な反響を起こしたといわれています。小林秀雄や和辻哲郎、小宮豊隆など多くの評論家が賛辞をおくったといわれています。一方で冷評も酷評もありました。そうした発表当時の状況を踏まえながら、同作品の世界を見ていきます。

作品の舞台は、東京の青山墓地から麻布三河台の志賀邸、そして我孫子の志賀邸と回春堂までの道のり、さらに和解後に我孫子を訪れた父を見送る我孫子駅に至るまでの広がりを見せています。改めて読むと克明に描かれている背景としての我孫子の情景や風物に興味をそそられます。

作品の内容は三部に分かれ、第一部は最初の子の誕生前後とその死を巡る緊迫した場面、第二部は次女の無事な出産に立ち会った鮮烈な誕生場面、第三部は青年時代から対立していた父との朴訥ながら感動的な和解の場面とその後日譚などで構成されています。特に和解後に我孫子を訪れた父を、主人公が我孫子駅まで送って行き、フォームでの父と子の情の行き交いと見送る列車のあり様などの描写が卓越しています。

この駅での見送りは、父と子と永い不和が解け、これから始まる変わらない絆を示しています。この父子の和解を巡っては、多くの評論家は、志賀が結婚して子を得て家長となり、父と同じ立場になって共感し、老いた父との親愛の情を持つ血縁や肉親の情によるものとしていますが、もつと大きないのちそのものへの静かな感動があつたのでしょうか。

十月十七日の放談くらぶでは、作品の重要箇所原文の朗読に耳を傾け、志賀直哉の文体の魅力と我孫子の当時の情景を思い描き、共に味わいたいと思います。

寄稿

「柳樹悦と嘉納治五郎との関わりを探る」の講演を聞いて。

ふるさと我孫子ガイドの会 中込 力三
明治二十二年に柳樹悦の父親である柳樹悦が手賀沼を訪れていたとの報道は、当時、とても衝撃的であり興奮したことを覚えていています。

それは、樹悦が明治二十二年二月に手賀沼を訪れ、手賀沼鴨猟の実踏調査報告書として刊行された「鳧雁狩猟説」の存在の発見でした。それを伝えたのは、当時、白樺文学館学芸員の竹下賢治さんでした。それから9年経ちましたが、その竹下さんが掲題のタイトルでの講演がある事を知り期待を込めて参加しました。

講演の内容は、柳樹悦と嘉納治五郎を俯瞰的な立場から分析して関わりを探るアプローチでした。私としては、期待通りの内容であり、更に、柳樹悦、嘉納治五郎の研究が必要である事を痛切に感じました。

今回、確認出来たことは次の2点です。

①殖産興業に二人とも関心を持ち発展に尽力。

柳樹悦……明治十五年に大日本水産会の立ち上げに尽力し名誉会員となっている。明治二十一年海軍水路部長を退任後、殖産興業の発展の為に活動している。(写真右)

治五郎……明治三十一年「殖産興業と教育に関する提言」を雑誌「國土」に。我孫子の嘉納農園は、この一環であり実践の場。

二人は、義兄弟であることから、二人が殖産興業を軸に日本の将来、行末について意見を交わしたであろうと、竹下氏は推察している。



②柳樹悦・勝子夫妻の長男悦多は、二人の思いを込めて育成。

樹悦の偉業は、悦多に引継がれていくことに。

柳樹悦が関与した大日本水産会は、明治三十四年から各地に水産講習所を開設。千葉館山に水産講習所が開設され、悦多は明治三十六年に入所している。又、悦多は、早くから嘉納塾と講道館で薫陶を受け、頭角を現わしている。竹下氏は、入塾は樹悦と嘉納との契約だったと推察している。

柳樹悦は48歳の時に、嘉納治五郎の姉、勝子と結婚している。

この事から治五郎は、樹悦の義弟となり、日頃から意見を交わしている事が想像出来る。

竹下氏が推察した前記の2項は、可能性が高いと思われる。

樹悦は、明治二十四年一月に肺炎の為に逝去している。この年の八月に治五郎は、竹添須磨子と柳邸で結婚式を挙げている。樹悦の死後、治五郎が柳家の支援をしていることもあり、引き続き柳家とは密接な関係を保っている。この流れの中で、柳樹悦・兼子夫妻が我孫子に住むことに。

さて、柳樹悦と嘉納治五郎の関りは理解出来たが新たに次の点に研究課題を見出した。

①嘉納治五郎と柳樹悦の関係はどうであったのか？

治五郎の宗悦に対する期待は何か。(長男悦多と比較して)

②悦多と宗悦の兄弟関係

悦多は、大正二年に千葉館山に定住している。宗悦は、大正三年に我孫子に住む。

二人は、どの程度の交流を行っていたのか？

③嘉納農園の殖産興業の面からの検討。

「嘉納後楽農園の思い出」(松本芳雄著)を参考に。

④柳樹悦の趣味の研究
植物、料理、詩歌等

最後に、嘉納治五郎が我孫子に別荘を設けた背景に、柳樹悦が関わっていることに、増々、確信を得た次第です。

第三十回短歌の会(最終採択の一首)

七月二十七日実施

月蝕を心弾ませ手賀沼へ
見えぬ満月帰る夜道は

芦崎 敬己

夫逝き余白と思ひしこの日々を
楽しむこのふと罪に似て

伊奈野 道子

叔母は死に我は死なずに成長し
そのまま今に至りたりけり

三谷 和夫

鉢植えの桔梗今年も株増して
将門伝説知らぬかのやう

美崎 大洋

古利根のほとりに不動尊まつられて
釣りする老人沼の精やも

納見 美恵子

また今年深く山入り岩魚酒に
君のほほ笑み酔ひて楽しく

佐々木 侑

「ありがとう」を「田」でなくて電話する
よろこび多く伝へるために

飯高 美和子

葉桜の道を歩めばさきまざまな
思い出浮かびはや親水広場

村上 智雅子

100年に一度咲く(?)花が開花

我孫子駅北口から第四小学校に向かう途中の空き地で、花が咲くまで数十年と言われる「アオノリュウゼツラン」が7月に咲いた。高さ6mにもなったこの花木はメキシコ原産で、一度だけ咲いた後、枯れてしまふという。とげの生えた分厚い葉を竜の舌に例え「竜舌蘭(リュウゼツラン)」の和名がついた。100年に一度咲くと誤解され、英語で「センチュリー・プラント(世紀の植物)」とも言われる。お酒のテキーラの原料としても知られる。



当会の行事予定

□「放談くらぶ」

日時 10月17日(日) 14時～16時

会場 北近隣センター並木本館(第2、3会議室)

講師 村上智雅子氏(当会副会長)

演題 「志賀直哉作品『和解』と我孫子」

(7ページ「あひこ」より97号「参照ください」)

◎参加費、会員無料、非会員三〇〇円(定員35名)

申込みTEL:0476-718506七五 佐々木まで

□プロジェクト「短歌の会」

第三十一回短歌の会

日時 9月27日(火) 13時30分

場所 けやきプラザ10階小会議室

編集後記 パラリンピックの理念は「スポーツを通じてのリハビリによる障がい克服」と「国際的連帯の促進」という。

それが時代と共に高度な競技能力の発揮による「感動」に重点が移ってきた。こうした「感動」が障がい者自身の能力発揮と社会参加の象徴となった▲メダルを獲得するには本人の努力は勿論だが、技術力、周囲のサポートが必要だ。2015年ロンドンのマラソンで銅メダルを獲得した道下美里さんは「目が見えないからこそ、世界を目指すチャンスをもたらえた」「目の不自由な娘に産んでくれてありがとう」と母に告げたという。(美崎)